



健やか豆知識

第14回

**Q. 65歳以上の人口のうち
認知症の人の割合は
何%でしょう？**

- Ⅰ 5~10% Ⅱ 10~15% Ⅲ 15~20%

認知症初期症状の例

- 意欲の低下
- 段取りの悪さ
- ことばの能力の低下
- 睡眠の異常



— 人びとの健康を願って —

高田製薬株式会社

認知症は“症候群”。 症状もいろいろです。初期の“不安”に着目を。

認知症は「認知障害があり、生活に支障をきたす段階に至っている状態」を指す用語です。つまり、「認知症」は単一の疾患を示していることではなく、「アルツハイマー病」をはじめとする、さまざまな病気・原因で生じた“症候群”のことを表します。

社会構造の変化、検査方法の進歩、そしてさまざまな啓発活動などによって、「認知症」の診断を受ける人の数は増え続けています(福岡県久山町の高齢者認知症有病率は1985年7%から2012年18%に増加)。2017年の高齢社会白書(厚生労働省)では、日本の高齢者の約15~16%(2015年時点)が認知症であることが推定されています。この現状を受け、認知症とはどういうものか、認知症の人がどんな体験をしているのか、多くの人が理解しておく必要があると思われます。

認知症はもの忘れだけが症状ではありません。とくに初期には「自分がもとの自分と違ってしまった」という主観的な感覚から、強い不安を感じるものがしばしばあります。周囲の人には、不安の心理を慮り、本人の背中をそっと支えながら受診の一步を踏み出す手助けをして頂きたいと思えます。

監修 笠貫 浩史 聖マリアンナ医科大学
神経精神科学 教授

さらに詳しい情報は
ホームページで!



⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください